

当園ではこの度、令和6年度の幼稚園学校評価として、教職員自己評価及び関係者評価を実施いたしました。教職員一人ひとりが、自らの教育活動や園運営の状況を振り返ることで、自身や園全体を見つめ直すいい機会となりました。また、それぞれの評価結果について、皆で話し合うことにより、成果や今後の課題、改善の方向性などを明らかにすることができました。この結果を深く受けとめ、更なる教育活動の充実、教育環境の整備、教職員の資質向上に努めてまいります。

I. 教育目標

一人ひとりの幼児を大切に、心の豊かさ・明るさ・秩序責任、土と風と太陽に親しみ、より丈夫な身体を育成し21世紀の社会に貢献し得る人格の基礎づくりを指導しています。

□協同と自主自立の精神を養う

□豊かな情操と感覚を養う

□創造性と思考力を養う

□健康で明るく、心の豊かさを養う

II. 今年度の重点目標

- 教職員の育成 ●子ども達への指導とかわり ●教員同士の情報共有
- 防災訓練の質の向上 ●安全管理体制の強化
- 地域の未就園児親子を対象とした育児支援の充実

III. 評価項目と取組み状況

評価項目		具体的確認項目	取組み状況	
1	教職員の育成	研修などから得た知識を互いに共有し、実践に取り入れて園全体としての保育スキルの向上を目指す。	B	・研修で学んだことを日々の保育に活かすことができている。 ・定期的に他の職員と受講した研修内容の共有を行っている。
2	子ども達への指導とかわり	子どもたち一人ひとりの成長に合わせて、教職員全員が柔軟に対応し声掛けに取組んだり、遊びを充実させる等の工夫をしていく。	A	・子どもたちの様子や年齢に合わせた保育の仕方をミーティングで互いに確認し、声掛けの工夫などができている。 ・遊びを充実させる為に玩具づくりの工夫ができている。 ・子どもとの関わり方について職員同士で話し合い、全員で統一した関わり方ができている。
3	教員同士の情報共有	教職員同士で意見交換の場を確保するように園全体で努め、教職員間の意思疎通を円滑なものにし情報を共有していく。	A	・定例的なミーティングを行うようになり、意見交換がしやすい環境になっている。 ・職員同士の反省会を行う事で保育に関する情報を共有し、質の底上げに取り組んでいる。

評価項目		取組み内容	取組み状況	
4	防災訓練・質の向上	子どもたちの防災意識を高めるため、災害発生に備えた準備や防災に対する知識の習得や子どもたちへの指導方法、また避難方法を再度園内で見直していく。	A	- 定期的に防災訓練を行っている。（毎月実施） - 避難訓練は現場だけで行うのではなく、避難の仕方を園長先生自ら説明いただくことで園全体で共通認識を作れている。 - 特に年長児の子どもたちには避難経路や逃げ方が定着している。
5	安全管理体制の強化	遊具使用時は教職員が必ず付き添うこととし、園内の点検箇所とルールを定めて園全体で安全管理に努める。	A	- 戸外遊びや遊具使用時には保育者による見守りを実施するなど、安全配慮の徹底ができています。 - 鉄棒やすべり台など遊具の特性ごとに危険なポイントを確認して見守りを行っている。
6	地域の未就園児親子を対象とした育児支援の充実	より多くの方々に来園いただけるような取り組みを実施し、園の魅力を地域へ継続発信していく。	B	- 園庭開放時に未就園児の保護者と情報交換ができており、一定の評価を得ている。 - 夏祭りを実施することで地域の方と交流できている。また、その際は卒園児やその保護者も来園してくださり、長期的な関係構築が出来ている。

【評価の基準】

S	十分達成されている
A	達成されている
B	取組まれているが、成果が十分でない
C	取り組みが不十分である

IV. 今後取り組むべき課題

1	教職員の育成	・研修で得た内容を共有するだけでなく、職員間で話し合い、自園に置きかえた内容へとブラッシュアップする機会があればより保育に活かすことが出来る。
2	子ども達への指導とかわり	- 子ども個々の発達段階に合わせたよりきめ細かな保育や声掛けをできるように心がける。 - 慣習に倣うだけでなく、新しい保育の形にも挑戦していく必要がある。
3	教員同士の情報共有	- 日誌をただの業務の一環として行うのではなく、情報共有の場と理解して記載する。 - 子どもたちの様子だけでなく、行事の情報を早めに共有し余裕をもって取り組む必要がある。
4	防災訓練・質の向上	- 避難訓練後に子どもたちと振り返りを行うなど理解を深める取り組みを実施する。 - マニュアル化されている避難方法だけでなく、様々な場面を想定し避難訓練自体もブラッシュアップしていく必要がある。
5	安全管理体制の強化	- 朝の戸外遊びの際に保育者全員が見守りに出られていないこともある。互いに声を掛け合ったり、業務を分担するなどして子どもたちが園庭で遊ぶ際にはより多くの保育者で見守れるように工夫する。 - 子どもたちが利用するだけでなく、その前後の時間での園庭安全チェックにも気を配る。
6	地域の未就園児親子を対象とした育児支援の充実	- 自園の良いところや仕組みは日頃から意識することですぐに答えられるよう準備しておく。 - 感染症や防犯には気を付けつつ、園庭解放日やお祭りの日はよりアットホームな雰囲気大切にしたい。

V. 学校関係者の評価

日常的な保育活動に加え、状況に合わせた見守り体制の整備や防災訓練の計画・実践に取り組んでおり、子どもたちの安全確保に対する意識の高さがうかがえる。とりわけ防災訓練においては、子どもたち自身の自衛意識の醸成にも寄与している点が評価される。加えて、日々の保育において職員間の情報共有の課題を的確に認識し、定期的な話し合いの場や反省会など具体的改善策に着手している点は前向きに評価できる。今後は、こうした取り組みをさらに定着させるため、日報や保育記録の運用ルールの整備を通じて、「共有すべき情報」と「その伝達手段」を明確化していくことが望まれる。

さらに、地域との連携や外部専門職との協働体制の構築など、園を取り巻く社会的資源を活用した「ひらかれた保育環境」の整備にも意識を向けていくことで、より質の高い保育実践へとつながることが期待される。

一方で、近年、グレーゾーンや発達障がいのある子どもが増加しており、少人数クラスでも個別支援が必要な場面が多くなっている。また、職員の負担が増す中で、大人の手厚い支援が必要となるケースも多く、今後の職員配置や支援体制の見直しが求められることから、早期の対策が望まれる。

以上